

校長室だより

No. 3

平成28年4月23日(土)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

不易と流行の視点で前へ進む

熊本で大震災がありました。被災者のみなさんに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く日常を取り戻せるよう心よりお祈り申し上げます。そして、私たちのできることを考えていきたいと思えます。

この2週間を見て「みんな頼もしくなったな」と感じていたのは、私だけではありませんでした。先生たちの多くが、子供の成長を肌で感じています。子供たちは学年が上がったことを立派に意識しています。

前号で、本年度の重点努力目標を示しました。本日はPTA総会開催日でもあり、まずもって取り組みたいと考えていることの2点について以下に示します。

(1) 授業で育てたい子供の姿

本年度の重点努力目標

ア ベんきょうがだいすきな子を育てる

- ・人の話を共感的に受け止め、理解し、考え、表現する姿勢と思いやりなどの心の醸成を図る。

上にあるのは、今年、特に子供たちに授業で育てたい学びの姿です。昨年、授業を見て回っているときや、担任の先生が出張でいないときなどに数時間授業をさせていただきました。そのときに感じたことは、本校の子供たちは、非常に素直に学習に取り組むよさがある一方で、仲間や他者(書かれているものを読み取ることも含む)の考えを説明する力に課題があるということでした。

そこで、今年度の始業式式辞で次のような話をしました。

1週目に続き、落ち着いて生活することができている。新しい環境に慣れてきたこともあり会話が増えてきた。「地」の部分も出てきている。しかし、けじめがついている子が多く、物事の切り替えはできている。一人ひとりその子たちなりにスタートで張り切ってがんばっている。【教師メモ】

昨年までの〇年生の子供たちと今年の〇年生の子供たち、1つ学年が上がったことで成長した部分が増えました。準備もぐっと早くなり、切り替えも早くなりました。-略- 私たち担任も、意識した対応、話し方を工夫していきたいです。【教師メモ】



【1 学期始業式 式辞の一部】

1 あいさつを元気にしましょう（一人ひとりの声をさらに大きく） 一省略一

2 友達の考えをよく聞く習慣を身につけましょう

3つの耳の話覚えていますか。一番よい耳は「ふくろ耳」でしたね。「ふくろ耳」になるコツは、人の話を聞くとときに「うんうん」とうなずいたり、「なるほど」と相づちをうったりすることでした。去年、授業を見て回ったときに、この「ふくろ耳」より、もっと上の耳を持っている子を見つけました。それは、「神様の耳」を持つ子です。どんな子かわかりますか。話した人の言いたかったことを上手に言い直せたり、思っていることをわかってあげられたりする耳をもつ人です。「神様の耳」がもてるといいですね。

3 健康な体づくりをしましょう（小さい学年と大きい学年との遊び） 一省略一

「神様の耳」を意識させることは、「人の話を共感的に受け止め、理解し、考え、表現する姿勢と思いやりなどの心の醸成を図る」ための手立ての一つです。

今後、もしかしたら授業を見ていくときに、私は、以下のようなことを子供たちに聞いてみるかもしれません。

・「〇〇さんの言いたかったことをもう一度言える？」

・「〇〇さんの考えについて、どう思う？」 など

お家でも、「最近の勉強で一番心に残った子の意見は、どんな意見だった？」と聞いてみて、お話ができた子は花丸です。

(2) うんどうが大好きな子を育てる改善

イ うんどうがだいすきな子を育てる

- ・種目・教材の開発、準備運動の方法や指導方法の工夫に努め、運動に意欲的に取り組む態度とバランスのよい体力を育成する。

次に運動面です。すぐにあるのは5月の体育祭です。そのなかで、本年度、特に新たな一歩を考えているのは、高学年の組体操です。

これまで本校では、身体を支える筋力やバランスをとる力の育成、規律ある集団行動の体得、責任感や連帯感の涵(かん)養を目指し、取り組んできました。一方で、昨今子供たちの成長の個人差や運動経験の差を感じるようになってきました。また、新聞等でも組体操のタワーやピラミッドなどの安全面が議論されています。

目の前の子供たちに必要な力は何かを見直し、体育祭・学年集団だからこそ経験できる側面を考慮しながら、組体操について新たな形の模索と研修をしたいと考えています。

